



- ◆教員からのメッセージ
- ◆自分たちの学びに自信を持とう！
- ◇AP 特任助教よりご挨拶

教員から体育大生へのメッセージ

「関心を広げることで、ポテンシャルを高めましょう」



スポーツ人文・応用社会科学系

前田 博子 教授

研究キーワード

スポーツ社会学

コミュニティ・スポーツ

ジェンダー フットボール

スポーツ社会学系の授業科目と、就職支援を担当している前田博子です。みなさんの持つ若さの素晴らしさとは、競技力の高さでも、見た目の美しさでもありません。それは、これからどの方向にも進むことができる、大きな可能性があることです。

将来の仕事について尋ねると、入学時点では教員になりたいと答える人が多いです。「体育学」の専門知識を生かせる仕事として、他に思いつかないと考えている人もいます。

実は、スポーツの専門性が求められる場合は、さまざまな分野に存在しています。現行の国のスポーツ政策では、スポーツ振興の対象として「する」ことに加え、「みる」ことと「ささえる」ことが含まれています。そこから、スポーツと関わる仕事の広がりが見えるでしょう。

体育大学への進路選択は、体育・スポーツへの関心からでしょう。その関心は、自分自身が「する」スポーツから始まっているかもしれません。ですが、そこに留まらず、視野に入っていなかった分野にも関心の幅を広げてください。大学では、体育・スポーツに関する幅広い分野の科目がおかれています。在学中は貪欲に学んで欲しいのですが、3年生、4年生になると、履修する科目を一気に減らす傾向がみられ、とても残念に思っています。幅広く学ぶことは、間違いなく将来の可能性を広げることに繋がります。

本学の卒業生は、すでにさまざまな場で活躍しているのですが、みなさんも幅広い学びから、さらに新しい道を拓いていってください。

「わかる」「できる」「上手くなる」は、ある日突然やってくる」

教職科目を担当します、栗山靖弘(くりやまやすひろ)です。教職科目は、教育学をベースにして、中学・高校の教員免許を取得するのに必要な知識や技能を伝達する科目です。

私自身、教育学を研究していて感じることは、何かが「わかる」、「できる」、「上手くなる」というのは、ある日、突然やってくるということです。

例えば、教師という仕事は、子どもの成長を促す仕事ですが、そのためには非常に忍耐を要します。「1つのことを教えたから、1つのことができるようになる」という印象を持っている方もいるかもしれませんが、実際は「3つ教えて1つできるようになる」くらいなのだと思っています。しかし、このことは、成長していないとか、停滞しているということではありません。一見すると停滞しているように見えても、目に見えないところで経験をストックしています。その経験のストックが、何かのきっかけで、突然、活性化することがあります。

みなさんにも経験があるのではないのでしょうか。突然、数学ができるようになった。突然、プレーが上達した。人間の成長は、階段を登るようなイメージではなく、溜めておいたエネルギーを不定期に放出するようなものなのかもしれません。

「努力や継続が大事」と言われますが、それはきっと、不定期にやってくる突然の成長の幅を最大化するための準備なのだと思います。



スポーツ人文・応用社会科学系

栗山 靖弘 講師

研究キーワード

教育社会学

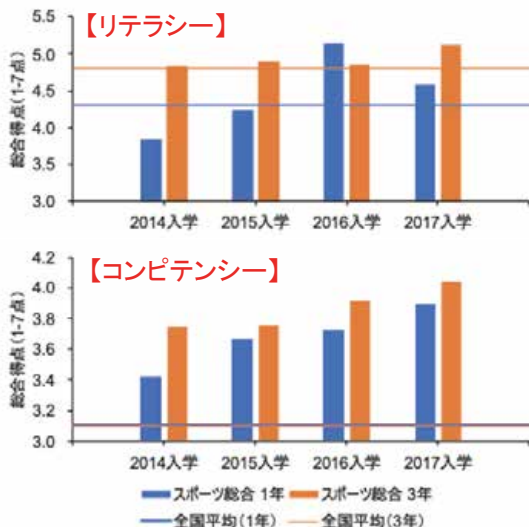
進路形成

スポーツ推薦入試

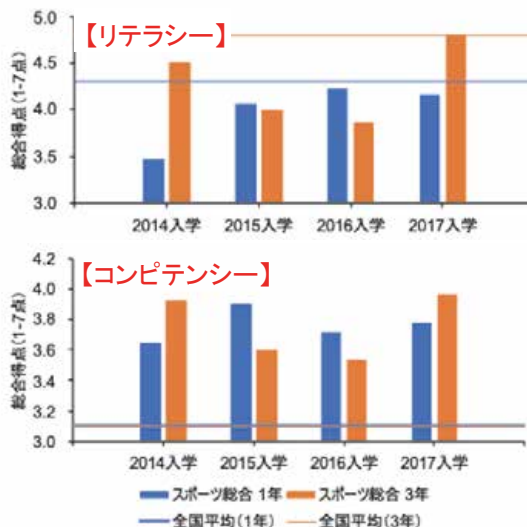
3年次のリテラシー、全国平均値を上回る！

自分たちの学びに自信を持とう！

スポーツ総合課程



武道課程



(注) 入学年によって3年次に伸びていないことも見受けられます。それらはテスト実施の方法や時期、さらに受験者数が影響している可能性もあります。

体育大生のコンピテンシー(下図)は、入学時から全国平均値よりも高く、3年次でも高いことが特徴です。

一方、リテラシーは、これまで低い傾向が続いていました(上図)。しかし、新教育課程3年目に入学した2017年入学(新4年生)の3年次の平均値は、初めて全国値(大学3年次)を上回りました。武道課程の学生も初めて平均値に並びました。

これは、本学の教育や学修によって課題解決する資質・能力が向上したことを示しています。それ故に、本学学生は自分たちの学びにもっと自信を持ちましょう。

◇学部2・3・4年生へお知らせ◇

NIFS passで、今身につけている力を確認し、次の学びの方向性(改善点)を決めよう！

Web Classからログイン
 <4/6(月)~4/19(日)まで>



3年間、お世話になりました。

2016年12月から始まった教育企画・評価室での職務も、3月で任期満了となりました。学部・大学院時代をあわせると約10年間、鹿屋体育大学でお世話になりました。

僕のように一度外に出てから鹿屋に戻ってくると、自由で、自然豊かで、食べ物が本当においしくて、学びやすい環境であることを実感します。やりたいことがあれば、様々な経験ができます。自分のやりたいこと、今できることを見極めて、将来に向けて鹿屋体育大学の環境をフル活用してほしいと思います。また、運動やスポーツ・武道から学んだことを自分の将来や社会に活かして行ってほしいと思います。

最後になりますが、4月からは兵庫県立大学総合教育機構の特任教員を務めることになりました。鹿屋を離れることにはなりますが、これからも鹿屋体大生のみなさんを応援しています。これからもがんばってください。



教育企画・評価室 特任助教 近藤亮介

<発行>

鹿屋体育大学 教育企画・評価室

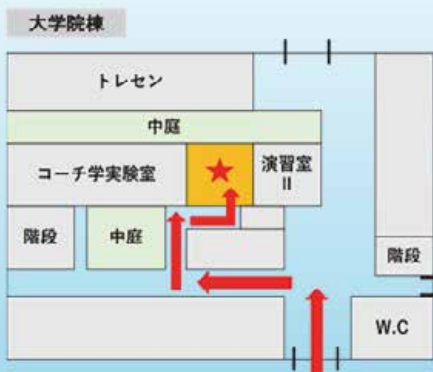
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
 大学院棟1階

TEL&FAX: 0994-46-5082

E-MAIL: kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

<企画・編集>

岡田あゆみ・金高宏文・近藤亮介



教育企画・評価室のHPもご覧ください



<http://ap.nifs-k.ac.jp/>